

と思います。この方便は、仏教用語で真理に導くための仮の手段だ  
 そうで、絵＝嘘なので「絵も方便」という式に当てはめれば、絵はだれ（画家）が、どこ（真理）に、誰（絵を見る人）を導びこうとしているのか。大げさに飾り立てた嘘（作品）によって画家（作者）は、見る人（我々）を、真理に導こうとしていていること  
 になります。

結論としては、美術館という美しく飾られた嘘で固められた乗り物（便）が、我々を本当の幸福へと導いて行こうとしているのかどうかが美術館の価値であり、その成果が役割だと思えます。そして、ある思潮や思想、信仰にまで公立美術館が導くことは行き過ぎです。ならばどこへ？それは、私たちが暮らしてきたかつてここに住んだ人々の言葉や絵画に織り込んだ心の息吹を美術館が現代人に伝えることだと思っています。

「創作版画」の魅力を教えてください。

不自由は自由だと思うようになりました。片岡鶴太郎さんは、絵を描く時、右手では筆が先走りすぎるので、左手で描くようになつたとどこかできたことがあります。木版画はこう描きたいと思つても、左右反対、色の数も数色、もう一色つけたいと思つても一枚板を掘り抜かねばならない。途中で最終形が確認できない。不自由な塊なのです。創作木版画は全部自分でやります。だから不自由な塊なのです。手で色を塗ればいいじゃないですか。と言いたくなるのですが、不自由であればあるほど、何が一番大事なのか純粋化され淘汰されるように思います。しかも創作版画の多くは、私たちに大げさ（デフォルメ）の面白さで、私たちの口元にほほえみを与えようとしています。

「展示会「はなが遊園地」をより楽しくする注目ポイントを教えてください。」

是非、来館された子どもさん全員に「絵を楽しくみる遊び方」をもれなく体得して欲しいと思います。それには今回のような創作版画が最もよい素材です。それから親子でご来館いただき、これからは、とーちゃん、かーちゃんから絵の見方を教えていたいただきたいです。学芸員の難しい説明は、必要になってから。まずは、もう死んじゃった、見知らぬ画家たちが我々にプレゼントしてくれた「絵に描いた餅」を、おなががすいたとき、おいしくほおばれる遊び方が、未来の子どもたちに携えてあげられるもう一つの栄養だと思っております。

最後に、五色の糸で飾られた嘘という曖昧なものの仲間として夢、希望、理想、感動、恋愛、愛情、そして心などがあると私は思います。

見て、感じて、遊ぼう！  
**はなが遊園地**

—府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより—

掛川市二の丸美術館  
 KAKEGAWA NINOMARU MUSEUM OF ART



《唄う女》浅野竹二

詳しくはP1を見てね

志賀秀孝さんプロフィール

- 1959年 福島県生まれ。  
成城大学文学研究科美学美術史  
東洋美術専攻博士前期課程修了
- 1986年 西宮市大谷記念美術館学芸員
- 1991年 府中市美術館建設準備室学芸員
- 2000年 府中市美術館学芸員
- 2008年 府中市美術館学芸係長
- 2017年 府中市美術館副館長補佐
- 2006年～ 財団法人地域創造公立美術館  
活性化会議検討委員も務める。